ふれあいのひろば

新年度の報告と今年度の抱負

上平間第二町会会長　秋元　宏之

日頃より町会活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。おかげさまで、昨年度も一年間無事に活動を終えることができました。これもひとえに役員を始め、各理事・各委員の皆様方のご尽力の賜物と感じております。あらためて厚く御礼を申し上げます。

今年も新年早々より各種の町会行事を行ってまいりました。恒例のたこ上げ大会は晴天に恵まれ、参加された子どもたちには大変好評でありました。その後の新年会では、多くの来賓の方から温かいご祝辞をいただき、日頃の交遊を深めるとともに大変な盛り上がりをみせておりました。

また、先日のお花見会は空模様が心配な中での開催でしたが、多くの方と楽しいひとときを過ごすことができました。簡単ですが、この場でご報告をさせていただきます。

さて、我が上平間第二町会では平成二十五年より川崎市まちづくり局の支援を受けながら「地域住民との協働によるまちづくり」のモデル地区として様々な取り組みを行っております。「地域の防災について考えよう」を第一回目として、防災専門家の方の監修のもと大勢の方に参加をしていただきました。その後も地区を班ごとに分け実際に地域の危険箇所を回り体験したことを地図に記すなどの活動を行い、現在、第六回「まちの“あったらいいな”を考えよう！その2」までおこなってきております。

これからも町会では地域としての防災力を高め、子どもたちから高齢者までの多くの世代の人たちが安心して暮らせるようなまちづくりを進めていきたいと考えております。防災訓練や救命救急訓練などの活動もおこなってまいりますので、皆様の積極的な参加をお願いいたします。

かわら版

平成27年4月　発行
上平間第二町会
編集責任者
茂木久夫
印刷所　長谷川印刷㈲

第二町会恒例の 町会花見開催

今年も恒例の花見開催を開花予想をしながら一ヶ月以上も前に、町会花見の日程を、三月二十九日に決定しまして準備を進めてまいりました。花見当日二日前ぐらいから天候が悪くなり雨が心配されました。昨年の花見は残念ながら中止となり、皆さん、がっかりされたので、今年はぜひ開催したいという思いが有りました。当日は、桜の花も例年になく満開に近い状態でした。お天気の方も日中は良くなり雨は夕方にずれましたので、最良のお花見日和になりました。

一方、歩く会の人達は、ガス橋下に集合しまして、ラジオ体操を行ったあと、皆さん元気にガス橋を渡って東京側の土手を桜の花を見ながら散策して、約一㎞程往復しまして会場の平間公園に戻り町会役員が早朝から準備した、おにぎり、ヤキソバ、飲物などでお花見が始まりました。参加人数も約二〇〇名となり大勢の方々が平間公園に集まり会場一杯になりました。住宅の皆さんは若い人達が多いので、子供さんも大勢参加されました。皆さん、これからもいろいろな町会行事に参加されて交流を深めていただきたいと思います。町会はこれからも地域と交流を広めてまいりますのでぜひ町会行事に参加されます様にお願い致します。

最後にクレッセント新川崎の皆さんこれからもよろしくお願い致します。

総務部長　丹野　政記

備え防災訓練実施

防災部長　草薙　貞夫

平成二十六年度防災訓練を、十一月二十三日平間中学校を会場に中原消防署指導のもと、共催として、第三町会、五瀬淵住宅自治会及び平間中学校の生徒達を含め約二百五十人の参加者で、年一度であるが、阪神・淡路や東日本大震災の記憶も時間とともに薄れ、世界でも日本列島は自然災害の中で地震大国とまでいわれ、それだけに地震の恐ろしさを認識、備えの一環として実施しているものです。

いつ起きてもおかしくない地震災害をいかに減災にとどめるか、そのため地域のコミュニケーションの場として貴重な活動で咄嗟の事態にも冷静に行動出来る備えでもあります。

安心のまちづくりをテーマに、今後も活動を理解していただき、まだ大半の人が危機意識が低く、そのためにもより多くの参加者に体験していただきたいと思います。

煙体験

非常時のトイレ作りの中学生

起震車体験

タコ上げ大会

青少年部　加藤

町会恒例の凧上げ大会は好天に恵まれ大勢の参加者を得て開催されました。クレッセントやレーベン等町会加入のマンションからの参加者も増えてにぎやかでした。青少年部・婦人部・理事さんの協力を得て、盛会に終了しました。前日から準備した「お志るこ」も好評でしたが、風が強すぎて凧が土手通りに飛ばされ担当役員が安全対処に大わらわでした。強風のため一寸早目に無事終了しました。関係者の皆様ありがとうございました。

あみがさ事件に寄せて 伯父（長谷川貞吉）の短歌

長谷川　平三郎

私がアミガサ事件一〇〇年の会に入会してから上平間や多摩川の歴史や古い資料がないか調べていくうちに伯父の短歌の本の中に水害にあった歌や砂利堀りの歌、アミガサ事件に自身が参加した歌などがあり、歌を少し紹介したいと思います。「床上を冒して深き水のため天井裏に鶯敷き寝ねつ」「洪水の去りたる後の泥かつぐ水田の上の明けがたの月」「泥水をかつぎし畑の芋頻は長く煮れども食物なさず」このような短歌は毎年のように台風や台風の後は洪水の被害に遭っていた。私の祖母の話では洪水の被害を減らすために夫婦で土を運び込み嵩上げをして少しでも被害を減らそうとしたと聞いています。二首目の歌は洪水が過ぎた後の水田の泥を担ぎ出し稲を守る為、夜通しで明け方まで作業を続けた歌と思われます。三首目の歌は泥水に長く浸かった芋（薩摩芋と思われます）類は変質して食べられなかった。「襄笠をつけし一揆の百姓の中に十五才の我もをりにき」この歌に自分がアミガサ事件に十五才で参加したと歌っています

「溺水に隠れし道を探りつつ真夜起き出でて群衆はゆく」この歌は深夜八幡大神に集合し、県庁目指して歩いて行く様子があり行く先々は洪水の影響で道が分かりにくく、探りながら歩くところもあったようです。

「幾度かありし洪水に耐へし後起こりたりにき百姓一揆は」度重なる水害被害を被り耐えがたくなり、築堤の陳情に及んだと思われます。十五才で陳情団に参加したとあり、若年ではと思われますが伯父の少年期の短歌にその頃の様子が歌っています。

「日曜は父に従い舟に乗りき年太ければわが手に余りし」尋常小学校の頃と思われます。「いとけなき少年のわれ父に従き日々舟にも竿にも慣れぬ」「あかつきの舟の子縁に置く箱を素足に踏めば刺すごとかりき」「労働にたへ得ず役に立たざれば我をうとみき性毅き父は」青年期の砂利堀りの歌「あかときの氷踏みつつ舟を曳き上せゆく多摩川べりを」「砂利を積み広き川面を一人にて下げゆかばかく軽き舟足」「生業といへども雨夜は水かへに舟護らむとわれのいい出ゆく」「舫ひたる舟の間に寝着けし父の落ちにき豪雨の夜なりき」伯父は本のあとがきで「明治も百年を迎へ、人々から忘れられ勝ちになりつつある。私はその明治に生まれ青年期を大正時代に過ごし、…自分で言うのは可笑しいが、数奇を極めた人生を巡って来た。これを記録とし、縁運なる方々と子孫への遺稿にしようと、書き起こしたものである」と述べていますので自身が体験した歌であると思います。因みに一九一四年九月一六日アミガサ事件、一九一六年二月～一〇月有吉堤工事、一九一八年四月多摩川本堤防起工、一九三四年多摩川本堤防竣工。

キッズガード

第二町会は、三小学校と一中学校があり、通学児童の安全を図るため、各所で見回りをしております。皆さんのご協力をお願い致します。

『ふれあいのひろば』への投稿お願い

町会の広報紙「ふれあいのひろば」は町会員皆さんの集うひろばです。詩、短歌、俳句、川柳、随筆、旅行記等何でも結構です。

但し、思想信条、宗教、プライバシー等に係るものは受け付けません。

上平間五七一　茂木久夫迄
（平間幼稚園前）

又は、町会役員迄お願い致します。

「知らない人」

今年も又、新一年生が入学して来た。背中一杯のランドセルを背負って、夢と希望と、ちょっぴり不安も覗かせて登校する。皆んなにお早よう、おめでとうと声を掛けている。しかし現実は一年生に先ず注意する事は、交通安全と、「知らない人と話してはいけない」と言う事だと言う。

児童の誘拐や、殺人事件が紙面を賑わす現実では仕方ない事だろう。

先生も「知らない人」と話してはいけないと話さざるを得ない、児童に気軽に声を掛けられないのが、悲しく残念である。大勢の優しく善良な大人達も、ひと握りの変質者や誘拐殺人者と一緒に「知らない人」にされてはたまらない。子供達が、気軽に話しかけ、触れあえる、そんな街に、そんな社会にしたいと思う。

団栗

上平間付近の多摩川堤防

『民生委員・児童委員について』

若桑　美子

★民生委、児童委員の選出は、地域の代表者が推薦委員となり、二五〇世帯位に一人選ぶ、区、市、国と推薦委員会を経て、厚生労働大臣により委嘱されます。　（一期　三年）

上平間第二町会の民生委員、児童委員は次の通りです。

一、二、三区担当…鈴木　邦子
四、五、六区担当…田嶋　順子
七区、日立住宅、
クレッセント担当…伊藤いづみ
八、九、十区、クリオ、
五瀬淵住宅　担当…若桑　美子
十一、十二区、
上平間住宅　担当…井出　宏夫
主任児童委員　上野　瑞枝
（平成十六年一月一日より新設）
平間中学、平間、下河原小学校

★民生委員・児童委員の活動

(1)、地域に住む一住民として、その人の立場に立って良き相談者として、赤ちゃんのことから高齢者の方まで、お話しの聞き役となります。

(2)、見守り活動

見守りの必要な方（一人暮し高齢者や、高齢者世帯など）

・ひとりでは限度があるので、町会の見守りネットワークを利用しています。

(3)、各行事、事業の参加

・ひとり暮らし高齢者の会食会
・子育サロン運営
・保育園、小、中学校会議、及び行事に参加
・町会、見守り及びミニディ活動に参加

(4)、行政や社会福祉協会の行う事業への協力

・共同募金（赤十字、赤い羽根、年末たすけあい）
・賛助会費への協力

その他

・月一回、定例民児協議会、会議に出席
・社会福祉協議会、各部会、会議に出席
・川崎市民児協、中原区民児協各主催の研修会等に出席

地域の防災まちづくり

防災部長　草薙　貞夫

川崎市まちづくり局主催による講習会をこれまで六回にわたり開催、町会としても啓蒙活動の一環として実際この地域で災害が起きたらどのような被害があるかイメージしながら地域の将来像を考えていく集いである。そもそも市が防災まちづくり分野の防災対策について、地域単位の取り組みが重要と考えられ、市内六九八町会ある中から二ヶ所、内の一つに当町会が指定を受けた。

最初は単なる講習会と思われた集いが回を重ねるにつれ、特に自分たちの住んでいる地域を歩いて点検し始めたころから少しづつ参加者の意識が変わり住民主体型の活動に、又グループ討議では積極的、且つ強固なまちにしようと取り組む姿勢が見られてきた。

とかく事が起きてから対処する傾向にあるが、事前に備える知識をもちあわせるか、すなわち知っていると、知らないとでは助かる確率に大きな差があるといわれている。そのことから地域の防災に取り組む活動は不可欠と思われ、そこで引き続き、これまでを踏まえて、自分たちのまちは自分たちで防災対策を推進、そのためにも、是非、この機会に自発的参加を町会として望みます。

わが思い出の区

八幡大神祭礼の今昔について

私は戦後昭和二十三年頃の八幡大神祭礼の状況を記憶して居るので書いてみます。

その当時は、上平間四町会は無く平間地区の青年が集まり八幡様と呼んでいた。八幡様の祭礼に青年が皆んなで演芸を行うと話しが出来神社総代会にも話をして計画進め、芝居と歌に決まり、芝居は「番場の忠太郎」。役柄を決め、歌は十曲程に決まり、西福寺本堂にて練習、祭礼に向って準備しました。八幡様総代会と相談、神社前の広場（現在道路）と用水堀を利用して芝居の舞台を建て、八幡様の祭礼を迎えました。祭礼は、夜宮と本祭りで二日間で神輿は当時は無く、お囃子は良く聞こえ、賑やかでした。祭礼の夜宮で演芸は、一部芝居二部は歌で。一部の芝居、番場の忠太郎は素人演芸では素晴しい演技で観客から拍手喝采でした。二部歌で遠田さんはバイオリンの演奏、素晴しい音色です。又西福寺の先代住職の渡辺澄香さんが宿河原小学校の先生でオルガンを演奏。教え子と「みかんの花咲く丘」を歌いました。私は岡晴夫の「帰りなん小鳩」を歌い年令は十九才の秋で、又青年部皆様は芝居に歌に素晴しく祭礼を盛り上げる祭りでした。その後上平間地区に昭和三十七年上平間四町会、各町会が設立され神社会館も建設され、祭礼毎に各町会より演芸出演者が募られ盛況に行われています。又五年程前八幡大神神社神輿が建立され神社総代に依り祭礼時に上平間四町会へ毎年渡御を行われて居ます。私の祭礼の思い出として記しました。

平成二十七年四月四日

町会顧問　森　善一郎

俳句　天神台句会

三～四月の多点句

冬空へすくっと憤怒の鬼瓦
菜の花や陽を集めたる庭の隅
草引く手思はずとめて犬ふぐり
下萌えて弾ける児等の土手滑り
雛人形飾る事なく幾年ぞ
老いし身を労はり合うて梅の里
東風吹けば老いのハートも咲きにけり
春雨や留守居一畝静心
空襲と津波追悼春浅し
母の声背中に受けて新入生
友と酒老い追い払う桜かな
陽に溶けて川面漂う春霞
満開の花よし黒き枝もよし
雪残る御蔵未だ眠る富
一蝶の舞菜園の日和かな
花日和花より団子の母連れて
ほどほどに柳若葉をゆらす風
土撥ぐ春に目覚むる命あり

道悼

堤前町会長が、この天神台句会を立ち上げて早や十一年の歳月が流れました。

昨秋、横浜に転居して、自句集の出版編集を終えるのを待つように旅立ちました。嬉んでご冥福をお祈りいたします。この上は天神台句会を末永く続けて行く所存です。

句会の繁栄を泉下よりお見守りください。

天神台句会では会員を募集しております。どうぞお気軽にお参加下さい。

毎月第三水曜日、午後一時三十分から町会会館二階で開催しております。

会費　月五〇〇円
会長　高山房子　五一一―一八二一
幹事　山上　正　五四四―四二八七
幹事　佐藤輝之　五一一―六一四七

思い出のコーナー

松尾芭蕉奥の細道一人旅（その4）

青木　源司

前回は山形県新庄市古口より、最上川下りの乗船まで紹介しましたが、今回は、最上川を下り、出羽三山を経て鶴岡から酒田、象潟辺りまでを紹介します。

十月四日宿を七時に発ち、乗船地に向かう。今日は天気も良く、川はゆったりと流れている。大勢の観光客を乗せて、静かな流れに任せ出発する。船頭の名声で風光明媚な景色を説明しながら、そしてまた時々名歌の最上川舟唄を披露しながら、十二キロメートル、一時間の旅を楽しませてくれる。終点草薙温泉で下船し一路出羽三山へ向かう。芭蕉は清川に下船している。その地の小学校に芭蕉像と名句碑が立てられている。「五月雨を集めて早し最上川」を訪ね、手向街道・山崎・添津・三ヶ沢を経て羽黒山に着く。今日の宿はここから一キロほど奥に入った静かな温泉宿である。お客は私一人、夕食時は女将と芭蕉の話が弾み、楽しく美味しい夕食の一時でした。

さて翌日七時に宿をあとにし、いよいよ出羽三山の一山である標高四一四メートルの羽黒山の登りである。随神門から山頂まで、二四四六段の石段を登るのだ。これが修験道場と言われる山である。これを登り切って山頂に着く。山頂には羽黒山神社・月山神社・湯殿山神社の三山合祭殿がある。そして三社の句碑「涼しさやほの三日月の羽黒山」「雲の峰いくつ崩れて月の山」「語られぬ湯殿にぬらす袂かな」と社を拝観参拝し、月山・湯殿山へと足を進める。羽黒山は標高こそ低いが、厳しい石段の登りであるが、この神聖なる神秘的な聖域の階段を、一歩一歩登っている時、人生の修行の一端であることを感じていた。月山は八合目まではバスが行くが、ここは歩いて登り、十時、八合目宿に到着する。翌十月六日、御来光を拝して六時宿を出発。弥陀ヶ原の草紅葉を踏み分け千九百七十九米の月山山頂を目指して出発する。池塘と草紅葉が相俟って素晴らしい光景である。そこを過ぎると険しい修験道が続く。やがて二時間ほど登ると山頂に到着する。山頂には月山神社が祀られており、そのちかくに「雲の峰いくつ崩れて月の山」の立派な句碑が立てられている。

月山神社を参拝し、湯殿山に向かう。鳥海山から朝日連峰の雄姿を見ながら、厳しい修験道を下り、湯殿神社到着。大勢の登山客で賑わっていた。ここでは「語られぬ湯殿に濡らす袂かな」の句碑が残されている。今日はここで泊る。十月八日、宿を七時出発。国道一二号線をひたすら歩き鶴岡に向かう。十七時鶴岡に到着宿をとる。

翌日七時宿を発ち、鶴岡市街を散策。鶴岡市は酒井忠直十四万石の城下町であり、芭蕉は藩士の長山重行宅に逗留していない。鶴岡市街を散策し、酒田へ向かう。酒田市は山形県の北西部に位置し、最上川の河口にある工業都市と、米・塩などを輸送する港として栄えた都市である。従って港付近には海運に携わった豪商邸が多く見受けられる。また日和山公園には「あつみ山や吹浦かけて夕涼み」「暑き日を海に入れたり最上川」の句碑がのこされている。酒田を散策し、十月十一日、いよいよ芭蕉が辿った奥の細道の最北端、象潟へと向かう。象潟は秋田県の南西部に位置し、国道七号線をひたすら歩く。途中避佐町辺りで旧道奥の細道に分離されて遊歩道になっている。この道に

大田区梅園の部屋を借りて句作

日和山公園に立つ芭蕉と曾良の像

は戊辰戦争の慰霊碑や太子堂などが史跡として残されており、右に鳥海山の雄姿を仰ぎ、左に日本海を見ながら象潟に着く。象潟の付近一帯は鳥海火山の泥流地形で、鳥海の影を映す入り江の中には、八十八潟と九十九島の美景をつくっていたが、地震により地盤が隆起し、一瞬にして陸化した。その後、潟は開田され現在は、田圃の中の島に松の木が生えた小島が散在して昔を物語っている。この情景が田植えの頃になり、田圃に水を張ると、一面海面となし、田にしえの情景を映しだしてくれる。その有り様はなんと表現しよう。ロには現しがたい情景なのだろう。芭蕉も松島と並び、称された象潟に心を引かれたのであろう。芭蕉の訪れた甘満寺境内からこの情景をつぶさに見ることが出来る。ここで一句「象潟や雨に西施がねぶの花」の句と像が甘満寺に残されている。この景晴らしい情景を堪能し次の地へと足を運ぶ。今号はここまでとし、次号は結びの地大垣までを紹介します。

平泉金色堂

小さなお話

玉川あるある　ちょっとした話

一月の或日、ベンチに腰掛ける高齢者の方にしきりに話しかける二人の女性。転んだので、助け起こした所でした。顔に少し血が滲んでいましたが、しっかりした受け答えをしています。近所に在るご自宅まで送っていくということでしたが、遠慮されてなかなか動きません。お子さんのお迎えがあるというのに、心配している女性。もう一人の方は、歯医者の予約時間を変更してまで、送り届けようとしています。結局、お子さんのお迎えには行ってもらい、私と二人掛りで自宅まで送りました。ご家族も在宅していたので、安心しました。

きっと皆さんの周りにも見かける場面だと思います。心優しい方がいる、こんな地域に暮して良かったなと思える出来事でした。

S・K